

# 木曾谷を去る人々

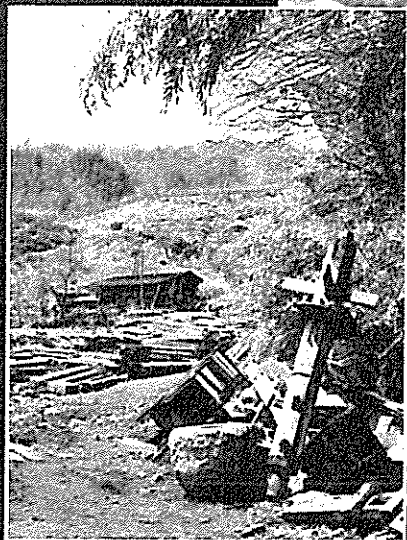
おくりつ  
おくりつ  
はては  
きそのとき



長野県西筑摩郡三岳村無名

—Sさん一家の場合—

思ふまじ 見まじとすれど 我家かな (一茶)



夕陽きらめく王滝川と水没部落

## 住めば都ということについて

牧尾ダムのために水没する戸数は全部で174戸、長野県は西筑摩郡王滝村と三岳村の人々である。4年越し難航を続けてきた補償問題も、つい先頃円満に解決して水没する人たちは、いま移転の準備に心落付かない毎日を送っている。このSさん一家もその1人だ。

Sさん一家は愛知県の三好村緑ヶ丘開拓地に移住する。息子さんが発して家を建てている。

昔の人はうまいことをいった、「住めば都」——風な諦観といってしまうとそれまでだが、とにかく真理にはちがいない。

産土の地を去ることはたしかに辛い、新しく移り住む土地も馴染んでくれば、また離れがたい第二の故里となることだろう。



Sさんの家、後の山ぎわまで水がくる

## 木曾谷を去るについて

もう老境に入ったSさんの表情には何か諦め切ったものがみえる。しかし若い人たちはちがう、木曾谷を下ることを喜んでいる風にさえみえる。世代の相違というものであろう。若い嫁さんにレンズを向けると「おらぁレッテルが悪うてな」とほがらかに笑ってまるで屈託がないのである。総じて若い人たちは明るく希望にもえているかのようである。

しかしSさんにかぎらず移転する人たちの胸の内は同じであろう。多くの希望、そしてそれと同じ位の不安——。

Sさんはじめ移住世帯の人々の前途の多幸を心から祈りたい。



こんなナリではいやじゃとおっかさんもカメラを拒否する



明るく笑う若い嫁さん



ガラクタクもやし、表情は悲憤深げである

